

## 育てるということ

私は日本にいる時、毎年5月の大型連休明けにアサガオの種をまいていました。水を欠かさずやり、時々肥料を与えました。つるが伸びてくると、支柱をあてがいます。肥料を与えたからといって、成長を早め、すぐに美しい花が咲くわけではありません。結果は数ヶ月も後に出るのです。

夏を迎えた頃、大輪の美しい花が咲きました。咲かせたのは花自身。種子や茎、葉に蓄えられた力が自らの花を咲かせたのです。花を咲かせるまでには手間と時間がかかりました。世話をしているうちに、成長への関心と期待が高まり、愛情が湧いてきます。愛情というもう一つの肥料が、美しい花を咲かせたのかもしれない。



子どもを育てることも同じではないでしょうか。子どもは本来、生命力や成長力を内に秘めています。これらを引き出し、さらに伸ばすには、周囲の教師や保護者の関わり方が重要になります。結果や成果をせいては事をし損じます。腰をじっくり据え、時期が来るのを待つ心のゆとりが欲しいものです。

子どもにより良い成長、発達を促すには、先回りして準備したり、将来遭遇する阻害要因を取り除いたりすることも大事ですが、今求めていることを察知し、タイミングよく施すことがより重要だと思います。自動車や家具やパンなどモノは「作る」といいますが、アサガオの花など生き物は作るとは言いません。植物や動物は一般に「育てる」といいます。

子どもを育てる時、型にはまった画一的な指導やしつけは行われません。同一性を求め過ぎると、子どもに同調圧力がかかり、ストレスを生み、自立の遅れにつながるからです。それぞれの子どもがより良く成長していくためには、教師や保護者が子どもの良さや可能性を見出し引き出すとともに、子どもが最適な環境の中で、周囲の人たちと適切に関わることです。

子どもを育てるとは、当事者の意思と可能性を信じ、愛情をもって接すること、支えること、そして、腰を据えて待つことです。一人一人にその子らしい花が咲くことを願っています。

**【お知らせ】** 来週の15日は、Martin Luther King Jr. Dayで祭日です。そのため、16日は代休となり事務室と図書室は閉室となります。